

津波浸水区域における緊急輸送路確保のための高規格道路の整備

政策提言先 国土交通省・内閣府

政策提言の要旨

東日本大震災では、道路の寸断や津波による浸水により、物資の搬送が滞り、被災地では生活物資の不足が深刻な問題となりました。

本県においても、近い将来、発生が想定されている南海地震時には、道路の寸断や津波による浸水により、道路ネットワーク機能が麻痺することが懸念されています。一般道路が通行止めとなった場合でも、地震発生後に迅速な救援活動や物資搬送等を行うことができる緊急輸送路となる高規格道路の早期整備が必要です。

【政策提言の具体的内容】

1. 地震発生後の迅速な救援活動を行うためにも緊急輸送路が分断される区間の早期整備を！

津波浸水によって高規格道路の通行が遮断される区間、および浸水により一般道路が長期通行不能となり緊急輸送路が分断される以下の区間について、早期整備を行うことが必要だと考えます。

- 須崎道路 須崎東 I C～須崎中央 I C
- 高知東部自動車道 高知 J C T～高知南 I C

2. 可能な場所については高規格道路を緊急避難場所に！

盛土構造の高規格道路は、津波被害を軽減する堤防としての効果を発揮するとともに、地震発生時には道路利用者はもとより、近隣に居住する住民の緊急避難場所として活用することで、多くの人命が救われます。

【政策提言の理由】

本県には、県都高知市と県東西の市町村とを結ぶ幹線道路は海沿いに1本しかなく、地震によって津波浸水が発生すれば、道路が各地で通行不能となり、救援活動や物資搬送が滞り地域全体が孤立する恐れがあります。

東日本大震災では、海沿いの国道45号において橋の流失や浸水が各地で発生し、通行不能となりましたが、山側をほぼ並行して走る「三陸縦貫自動車道」の被害は小さく、地震発生数日後には国道45号の迂回路として、被災地への物資輸送等に利用されています。

このことから、地震発生後に迅速かつ円滑に救援活動や物資搬送を行うためにも、信頼性の高い緊急輸送路を確保することが必要です。

また、盛土構造の高規格道路は、津波被害を軽減する堤防としての効果を発揮するとともに、昇降設備を設け、緊急避難場所とすることで、地震発生時には道路利用者はもとより、近隣に居住する住民など、多くの人命が救われます。

【高知県担当課】土木部 道路課